

日本アジサイ協会

THE JOURNAL OF THE NIPPON HYDRANGEA ASSOCIATION

第 19 号 2008.03.

あじさい



「広瀬の華」 写真提供：佐貫明美
外周の中性花は大型の八重花
中心の両性花は小型の八重花となる。島根県産。

CONTENTS

- 3. 国際アジサイ会議に参加して 上町達也
- 7. 九州北部におけるヤマアジサイ 野村博民
- 17. 神奈川県農業技術センターHPより転載の許可を得て掲載しました ファイトプラズマ
- 19. 府中市郷土の森博物館 アジサイの品種見本園植栽について
- 20. 平成 19 年度総会 三光寺
- 26. 事務局だより

国際アジサイ会議に参加して

上町達也

『アジサイに関する初めての国際会議を2007年にベルギーで開催するので、そこでアジサイとヤマアジサイの関係についてなにか話をしてくれないか?』とベルギーアジサイ協会のベールマン博士からメールが届いたのは2006年の春頃のこと。1年以上も先の話なので、まあ何とかなるだろうと気楽に考え、『はい、よろこんで』とメールで返事を送った。しかし(いつものことながら)実際に発表の準備に取りかかったのが出発日の直前となってしまう、スライド(パワーポイント)は何とか仕上がったものの、発表原稿は完成しないまま飛行機に乗ることになってしまった。

8月15日の朝、関西国際空港から家内とともに出発し、オランダのスキポール空港で杉本誉見氏、鈴木美智子氏と合流した。ベルギーのブリュッセル行きの小さな飛行機に乗り換えたが、途中、乱気流に遭遇してしまい、飛行機はジェットコースター状態。真っ青な顔の4人は、空港から鉄道でゲントの町へ向かい、ゲントの駅から更にトラムに乗り、午後9時頃になんとかホテルにたどり着いたのであった。

8月16日はプレコングレスツアー(会議前日の見学ツアー)に参加した。朝、会議の開催場所であるゲント大学植物園に行き、大会のメイン会場となる会館で受付けをすませた。ここで展示会場に展示物を搬入しているコリン・マレー、ロベール・マレー夫妻と出会った。杉本氏、鈴木氏とマレー夫婦は再会を喜び合い、また杉本氏によりマレー夫妻に私たちを紹介して頂いた。これまでに杉本氏や山本前会長からコリン・マレー氏に関する様々なエピソードを伺っていたが、実際にお会いしてみると、想像していた以上に豪快で明るい人物であった。

ゲント大学植物園を出発したツアーバスは、約30分でDestelbergenにあるベルギーアジサイ協会のアジサイ展示園に到着した。約2時間かけてアジサイの系統保存園並びに見本園を見学した。ベルギーアジサイ協会の系統保存園では、特にアスペラ種やノリウツギのコレクションが充実している印象を受けた。様々なアジサイ並びにアジサイ近縁種が栽植されていたが、日本では盆の時期にあたるにも関わらず、いずれも花をつけている株が多く、また開花期をすぎた花房も汚く茶色に枯死するのではなく、美しくドライフラワー化しているものが多かった。日本のような高温多湿ではない欧州の夏は、アジサイにとって楽園のような環境なのであろう。このように欧州においては、アジサイは初夏から秋にかけて咲き続けるが、花芽がどのような時期に分化しているのか非常に興味深い。尚、アジサイやヤマアジサイのコレクションも数多く栽植されていたが、案内して頂いたベールマン博士曰く、『アジサイとヤマアジサイのいずれに属するのかわかりにくい系統も多く、種の識別が難しい』とのことであった。見本園では、非常に多くのノリウツギとカシワバアジサイの品種・系統が栽植されていた。特にノリウツギは日本で見かけるものより花房が大きいものが多かった。また開花後にアントシアニンが蓄積して美しい赤色を呈してい

る品種もを見せていただいた。

見学後に、手作りのクッキーと紅茶・コーヒーをごちそうになった後、バスに乗り込みアントワープにあるカルムスタウト樹木園に向かった。この樹木園で昼食を頂いたあと、スタッフにより園内を案内して頂いた。樹木園の歴史やそれぞれの樹木および花木を解説していただいたが、日本では見かけることができない、非常に大きく成長したノリウツギが特に印象的であった。

翌日から2日間、本会議がゲント植物園の会館で開かれた。主催者発表によると、参加者は11カ国から合計162名ということであった。講義ホールの前は展示会場となっており、種苗会社や生産者、さらにベルギーアジサイ協会などによる様々なアジサイ苗の展示や、コリン・マレー氏などの著書の展示を見学することができた。ある展示ブースにおいて、非常にたくさんの花が着生したアジサイの仕立てものが展示されていたが、このような仕立てが可能なのは品種の特性によるものなのか、あるいは整枝などの管理の仕方によるものなのかとても気になったが、それを尋ねる機会を得ることができなかったのは残念である。また展示ブースに隣接した一画はポスター発表会場となっており、20課題ほどの研究の成果が展示されていた。

講義ホールでは、2日間にわたり合計23課題の講演が行われた。2日間の講演のうち、1日目の課題はアジサイ並びにその近縁種の植生や分類に関するものと、バイオテクノロジーを用いた育種に関するもので占められていた。一方、2日目の講演はアジサイの栽培管理に関するものから品種登録・パテント(特許)に関するものまで多岐にわたっていた。また講演と並行して、別の部屋では様々なテーマについての小集会が開かれていた。

1日目における最初の講演はコリン・マレー氏によるもので、日本、台湾、中国などにおけるアジサイ属植物、特にヤマアジサイ、コガクウツギ、ガクウツギとその近縁種の植生やそれらの雑種に関して解説されていた。日本での採集の様相を紹介するスライドでは、山本前会長や杉本氏、藤井氏などアジサイ協会の面々がたびたび登場し、マレー氏はその時のエピソードをなつかしそうに話しておられた。

ハフォード博士(Dr. Hufford)のアジサイ科植物の系統分化に関する講演は、非常に興味深いものであった。葉緑体DNAの配列データをもとにしたアジサイ科植物の系統解析結果を基に、アジサイ科植物の系統分化の過程や花、果実、種子などの形態の多様性について解説されていた。ハフォード博士によると、アジサイ科植物の地理的起源はアメリカ南部西部及びメキシコの乾燥した山岳地帯であるが、アジサイ科の中のアジサイ連グループは湿った森林地帯に適応していき、広範囲の地域に分布することとなったそうである。アジサイ連の中のアジサイ属とその近縁種のグループ(私たちがアジサイの仲間として容易に認識できる、アジサイ、ノリウツギ、カシワバアジサイ、イワガラミなどのグループ)の地理的起源に関してははっきりしないとのことであった。

ところで、私自身の発表であるが、原稿を片手にたどたどしい英語でなんとか無事?にこなすことができた。テーマはアジサイとヤマアジサイの遺伝的関係で、日本におけるアジサイ、ヤマアジサイ、エゾアジサイの地理的分布と形態的特徴、さらにDNAの配列に基づいた類縁関係の解析結果について話をした。また本題に入る前に、滋賀県(私が現在住ん

でいる場所です)の山で見られるものを中心に、ヤマアジサイ、ノリウツギ、クサアジサイ、イワガラミ、ギンバイソウなどのアジサイ科植物の自生の様子について簡単な紹介を行った。講演後に、「興味深い、面白い内容だった」との感想を何人かからいただき、胸をなでおろした次第である。

2日目の講演が全て終了した後、大きなガラス温室の前室で閉会式を兼ねたアマチャティーパーティーが催された。このアマチャは、杉本氏のご尽力のもと、あらかじめ国際会議の開催前に日本アジサイ協会から今回の国際会議の主催者であるベルギーアジサイ協会に贈呈していた調整済みのアマギアマチャの葉を煎じたものである。国際会議の企画・運営の中心であったベールマン博士による閉会の挨拶の中で、アマチャが日本アジサイ協会から贈呈されたものであることが紹介され感謝の意を述べられた。また、このパーティーの中で、アマチャリキュールなるものが振る舞われた。アマチャをベースにして作ったお酒だそうである(とても甘かった)。

翌日は、コリン・マレー氏のアジサイコレクションの見学ツアーに参加した。このツアーの報告に関しては、杉本氏にお願いして書いていただいたので省略する。この会議には、いろいろな分野の研究者、種苗会社や生産者、愛好家など様々な立場の方が様々な国から参加されており、非常に活気に満ちたものであった。このような場に参加する機会を得たことに感謝するとともに、今後もこのようなグローバルなアジサイの情報交換の場がもたれることを期待したい。



アスペラ・ビローサ

「ベルギー、アジサイ協会系統保存園にて」撮影
杉本誉見報告文は次号に掲載。



写真1. ベルギーアジサイ協会の系統保存園



写真2. ベルギーアジサイ協会のアジサイ展示園 赤色を呈したノリウツギの花房



写真3. カルムスタウト樹木園の大きく成長したノリウツギ



写真4. アジサイの仕立てものの展示
Hydrangea macrophylla "Lavblaa"
1965年ドイツのSteiniger氏作出
出品者ドイツ Synergy Breeding GmbH 社
杉本調べ



写真5. フラワーアレンジの展示



写真6. 発表中の筆者

Buddha's Birthday Festival



写真7. 筆者の発表で用いたスライドの一部

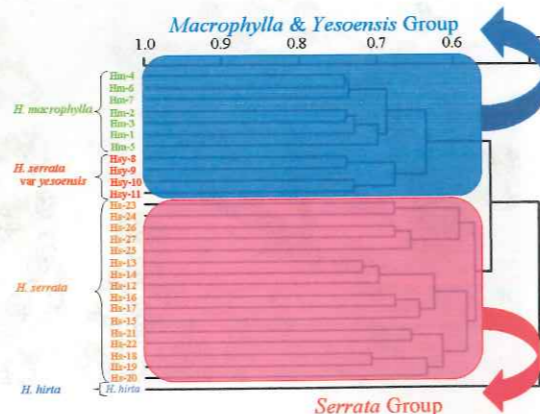


写真8. 筆者の発表で用いたスライドの一部

撮影 上町達也

九州北部におけるヤマアジサイ
—探索とその成果—

山口県 野村博民

初めまして。私はヤマアジサイのコレクターを自認するほどヤマアジサイの収集に全力を注入しているものです。私がヤマアジサイを知るきっかけは20数年以前にさかのぼりますが、当時家内が山野草特に茶花類を熱心に収集していた関係で、休日ともなれば私が運転手役を務め家内と山草家宅を訪問するのが休日の行事となっていました。ある日当地で著名な山草家宅で、小さな花が鉢一面に咲いている青花ヤマアジサイに出会い強烈な印象を受けたことを今でも思い出します。

故山本会長が監修された「別冊家庭画報茶花シリーズ四・紫陽花図鑑」に掲載の、美しいヤマアジサイの写真に接し益々ヤマアジサイに魅了され熱中していきました。アジサイ協会の設立を知り直接故山本会長へ入会をお願いしました。設立総会の日の1週間前に出張で上京し、帰路鎌倉八幡宮の「アジサイ園」と神戸森林植物園の「アジサイ品種保存園」を見学することができました。特に保存園で当時話題の「六甲テマリ」に出会えたことはなつかしい思い出として心に残っています。その後2度の転勤を経験するなど多忙な日々の連続でアジサイ栽培はままなりませんでした。家内の協力で細々と栽培は続けていきましたが、やっと5年前少し体調を損ねたのを期に自由な身となり、アジサイ栽培に専念することができるようになりました。

今から3年前には盆栽会に入会し3ヶ月後に開催された秋の盆栽展に出展し皆を驚かせました。年2回の展示回数も5回を数え小品盆栽の栽培鉢数も100鉢を超えるまでになりました。又、今までのアジサイ研究の遅れをとりもどすべく、藤井副会長および白石哲士氏から提供をいただいたアジサイに関する文献ならびに既刊の会報などを丹念に幾度となく読み直すなかで、故山本

会長が東奔西走のすえ「白妙」「深山八重紫」「舞妓」など数多くの名花を発掘されその普及に尽力されたことを知りました。

私も一つだけでよいから後世に残る名花を世に送り出したいと思うようになり、福岡・大分両県の山草家と親交を深めていく中で故山本会長の話題が良くでてきます。その人柄を物語るものとして“面倒見のよい人だった”“なんでも相談ができる気さくな人だった”と親しみをこめて話してくれます。拙宅にも台風の被害状況が報道されるたびに見舞いの電話をいただいておりましたが、ある時家内が応接し、いきなり「アジサイは元気でびんぴんしています。アジサイに被害はありません」と返答したそうです。すると会長は語気を強め「お宅の被害状況を聞いているのです」と言われたので、たいへん恐縮したと当時のことを懐かしそうに話しています。

当地のアジサイ愛好家達はヤマアジサイの探索に懸命な努力を重ねています。アジサイ界の活況を取り戻すには魅力的な新花を次々に発表することが一番だと思っています。日頃の活動状況をまとめてみました。写真と共にご覧いただければ幸いです。

八重花が九州北部に集中するわけ

今回紹介するヤマアジサイの八重咲き12品種は九州北部の福岡・大分両県産で、いずれも小型、小葉性の鉢栽培に最適の品種です。詳しくは写真ページをご覧ください。ヤマアジサイの八重花は数万株に1株あるかないかの大変めずらしい変わり咲の変異種です。八重花の程度は二重、三重、四重、五重、塔状八重などがあります。

=ヤマアジサイ八重花品の発見状況=

下の枠内に本州を除き私の確認把握している範囲内で記載して見ました。なお九州北部地域の約20個体は全て最近5年以内に発見されたもので、今後も年2~3個体のペースで引き続き発見されることが期待できます。

四国地域：稲葉氏3個体、宮崎氏1個体のほかに「木沢の光」「剣山八重」「羽衣の舞」「仁淀八重」の計8個体
九州南部地域：白石氏2個体、故押川氏1個体の計3個体
九州北部地域：今回発表分12個体、私の未発表分3個体、他5個体の計約20個体

=探索状況=

当地の山草家達は10数年前からヤマアジサイの探索を始め今日まで続けておりましたが、めぼしい名花にめぐり会うことができませんでした。5年前に九州北部地域で八重花を発見したのを期に、以後続々と発見されるようになりました。当地の山草家気質はオリジナルでオンリーワン品を採取することに生きがいを感じている連中ばかりですが、10年以前に比べその人数は半減して約10名4グループが現在活動を続けています。

=あるグループの1日のスケジュール=

登山道はずれた灌木の茂った急斜面の中を一株一株確認しながら連続数時間の探索作業はハードなもので、加えて7月の梅雨の最中に当たり蒸し暑く脱水状態にならぬよう細心の注意が必要です。体力の回復には1週間を要する大変過酷な作業で体力のある人でないと務まりません。7月上旬のアジサイの開花時期に合わせての探索採取は天候状況、体力の回復状態などを勘案し探索回数は2回~3回が限度です。オフシーズンには山の地形等の調査を目的に10回程度入山して、開花期の探索行動が効率的にできるよう備えます。

上記でおわかりいただけたと思いますが当地の山草家達は、非常にハードなヤマアジサイの探索作業をグループを形成し組織的に実施しており、ヤマアジサイ探索採取のプロ中のプロといっても決して過言ではないと私は思っています。又、10年以上の長期間にわたる探索経験の成果として変異種が集中している場所を数箇所発見したことが、大量の八重花などめずらしい品種を発見することに役立っております。

おわりに

九州南部産のヤマアジサイ紹介は故押川昇氏、白石哲士氏などが発表されているため、この地域のヤマアジサイに関して皆様はよくご存じのことと思います。しかし九州北部地域のヤマアジサイとなると故山本会長が英彦山の「黄冠」を発表された以外は私の記憶する限りは特になかったと思います。

今回、ガク花、テマリ花、八重花など多種多様の変種が集中し自生している特異な場所を写真で紹介しましたが、この採取品だけで一つのコレクションを作ることができます。今年度は新たに、周囲には全くヤマアジサイが自生していない灌木に囲まれた広さ2坪~3坪の中に、単一色の赤花ガク花のみが咲いている不思議な場所を発見しました。数個体を採取しましたが、この赤花も顕著な個体差がありました。以上二つの自生

地で採取したヤマアジサイについては別の機会に披露させていただきたいと思っています。

☆☆☆

現在協会が推進されている普及品に係わる「品種名の統一事業」に関連することですが、農林水産省の品種登録制度とは別途に日本アジサイ協会独自の新花新品種に係わる「品種登録制度」を創設してはどうかと思います。

これが機能し実施できる条件としては全国的な組織が単一団体であることです。日本オモト協会他の園芸団体がすでにこの制度を実施しています。ご検討のうえぜひとも実施していただきたいと思っています。

今回発表した八重花12個体のうち名前があるのは「美栄の華」「鳴子紫」「津江の小雪」の3品種で、残りの9個体は仮名分を含め現在名前がありません。あれこれ思案はしていますが、よい名前がありましたらぜひお教えいただきたいと思っています。

私達グループが今最大の目標として取り組み努力を重ねていることは、かつて熊本県の白石哲士氏が発見されたが残念なことに幻となってしまった「キバナコガクウツギ」を再発見することです。

数年前になります熊本市の山草市場でこの「キバナコガクウツギ」が競りにかけられ意額の価格で横浜の業者が落札したとのたしかな情報がありましたが、その後の足取りがはっきりせず今日に至っております。

一刻も早く再発見され栽培できる状態になることを願っております。

私がヤマアジサイ、コガクウツギ、前期両者が交配して出来た交雑種を中心に収集活動を続けていますが、その中で私が今最も注目しているのはコガクウツギの八重花品種です。

一関観光協会発行のアジサイ図鑑には、佐賀県産の「花笠」と徳島県産の「ヤエノコガクウツギ」の2品種が掲載されていますが、私が把握しているだけでも四国で5個、九州で2個体が最近発見されています。

かつて故山本会長から前記の「ヤエノコガクウツギ」が発見された時には新聞紙上に大変な快挙であると報道されたと聞いていますが、現在の相次ぐ八重花品の発見にもかかわらず注目度は今一つで今昔の思いをかんじています。コガクウツギについてもデータがまとまりしだい発表させていただきたいと考えております。

写真1～4は自生地の同一場所を撮影したものです。登山道から少しはずれた広さ100坪程度の灌木に囲まれた窪地の中にあります。

10年以上の間アジサイ探索に携わって、数百万株のアジサイを見ているベテラン山草家も、2005年初めてこの地を訪れこの光景を目のあたりにしたときの感想は、思わず息を呑むほど美し

くこのようなヤマアジサイの群生地は見たことがないと言っております。この場所にはガク花、テマリ花、八重花が混在し群生しており、その一株一株に顕著な個体差があることが判明しました。正に変種が一堂に集まった、ヤマアジサイの宝庫だと私は思っております。

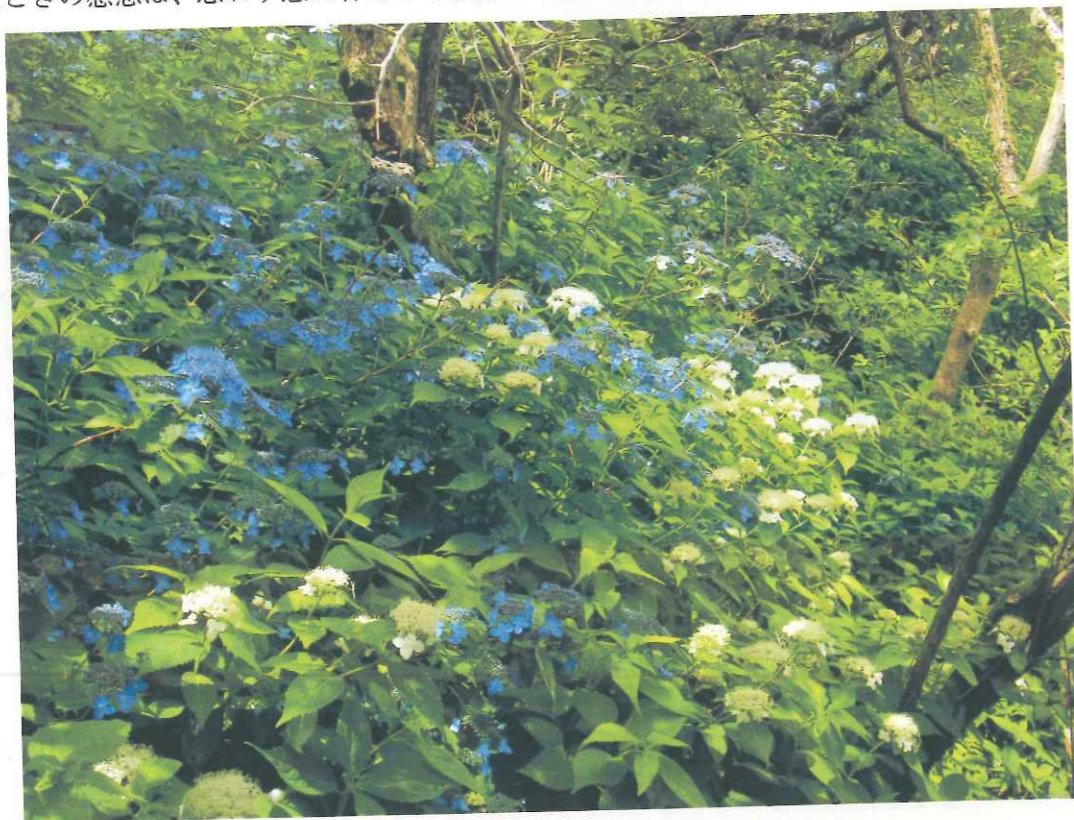


写真1 青花の中に白花が帯状に連なっている場所
まるで人為的に作られたヤマアジサイの寄せ植えを見ているようです。

写真2 青花テマリの群生地

写真では白く見えるが実際は青花。今年青花テマリの濃色タイプと花弁の小さなタイプの2個体を採取しました。



写真3 青花八重花、両性花が脱落する写真9のタイプ

2005年は写真8と9を採取し栽培しています。今年一部重複している可能性はありますが、両性花が正常なタイプ7個体と、両性花が脱落するタイプ2個体の計9個体を採取しました。



写真4 青花ガク花の群生

今年、ガク花の濃色タイプと花弁が細長いタイプの2個体を採取しました。



写真5, 6, 7 「美栄の華」

花色は深みのある海の青、澄みきった空の青にたとえることができるほど美しい青です。花弁は丸弁で「富士の滝」と同じ形、肉厚で透明感と艶がある。樹形は小型、小葉性、強健、多花性で鉢

栽培に最適な品種。私は「木沢の光」以来のヤマアジサイのスーパースターになる素質を有していると信じています。



12(354)



写真8上左 無名

写真1~4の自生地で採取した両性花が正常なタイプです。花色はこれも澄みきった空の青色にたとえることができるほど美しい青色です。小型、小葉、強健性、多花性で鉢栽培には最適な品種。

写真9上右 無名

写真1~4の自生地で採取した両性花が脱落するタイプです。花色、性質などは写真8の八重花と同じです。



写真10中, 11下

「鳴子紫」

花色はヤマアジサイにはめずらしいアズキ色の明るい紫色です。多花性で連弁花が出現します。強健性で鉢栽培最適品種です。

13(355)



写真12上, 13中
無名
写真中は2006年、段咲き紫に咲いていました。写真上は2007年、段咲きは解消しピンクになりました。



写真14 無名
採取時は桃色、2006年撮影時は艶のある美しい赤花に変わった。性質が弱いのが惜しまれる。

14(356)



写真15 無名
桃色の上品で美しい花だが性質がやや弱い。

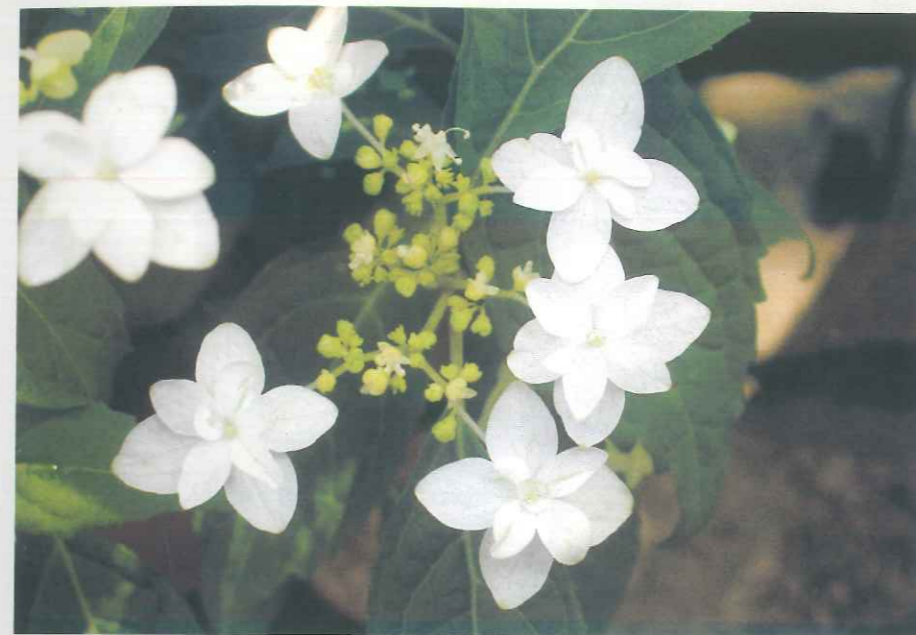


写真16 「津江の小雪」
西日本で初めて発見された貴重な白花八重です。性質は「白富士」に近いが相違点は花弁が大きく大輪花になることです。強健多花性、鉢栽培に最適な品種です。



写真17 無名
花姿は薄い紫色で風情があります。私のお気に入りの一品です。強健多花性、鉢栽培には最適な品種です。

写真18 無名
この花に初めて出会ったとき、「美方八重」に花姿が似ていると思いました。両性花がしっかりしていて花の終わりに散開しない、花弁は丸弁に近い所などの相違点があります。



15(357)



写真19 「久住八重花・仮名」改め「久住の舞」
当地で最初の段階で発見された青花八重花です。
御殿場農園の今年度カタログに「久住の舞」の
名前で掲載されました。

写真20下左 無名

写真19「久住八重花・仮名」と同一地域で採取
されたため似た感じを受けますが、飾り花の数が
多く花弁も花房も小さく多花性であることが違
います。



写真21下右 「九重濃色・仮名」

写真20の濃色タイプで花形も端正で美しい。
写真19～21の品種は鉢栽培に最適な性質を
持っています



病害虫名：アジサイ葉化病

作物名：アジサイ

平成19年9月18日 神奈川県農業技術センター所長

1. 発生経過

(1) 平成19年7月に県西地域の造園業者より、公園などに植栽したアジサイの花器が葉化する株が発生しているとの連絡がフラワーセンター大船植物園にあり、被害枝が農業技術センターに届けられた。

(2) 病徴からアジサイ葉化病が疑われたため、サンプルを(独)農業・食品産業技術研究機構中央農業総合センター昆虫等媒介病害研究チームに同定依頼したところ、PCR検定によりアジサイ葉化病と同定された。

(3) 農業環境研究部及び病害虫防除部職員の現地調査では、公園、保養所などに植栽されているアジサイの半数近くの株で花器の葉化症状が確認された。また病徴を呈した株の大半では一部の葉に黄化や赤色化が見られ、さらに衰弱症状を呈した株も発見した。聞き取り調査によると、発生は本年からであり、発病した株の春先の展葉は、赤茶に変色して縮葉していたという。

2. 病徴および病原の性質と伝搬方法

(1) 本県で確認された主な症状は、花器全体またはその一部が淡緑色～濃緑色を呈する葉化症状。葉化した花器の中央部から新たな芽条が形成される、つらぬき症状。葉の黄化、赤色化。葉の小葉化、および株の衰弱症状である。

(2) 病原はファイトプラズマであり、発病したごく片や花茎の篩管に細胞壁のない直径150～600nmの多数の球形や亜鈴系の多形性粒子が見られる。

(3) ヨコバイ類が媒介すると考えられているが、国内における媒介虫は現在までに明らかにされていない。また、ニチニチソウに接木伝搬することが確認されている。

(4) ファイトプラズマの種や病原型によって特異的に決まっている媒介虫(主としてヨコバイ類)によって永続的(増殖型)に伝搬されるが、経卵伝染はしない。人為的な株分け、挿し木、接木などの栄養繁殖を行った場合にも病原は失われないが、種子伝搬はしない。

3. 防除対策

- (1) 発病株の早期発見と早期除去に努める。
- (2) 発病が疑わしい株からの増殖は行わない。



発病した花器(下)と健全な花器(上)



発病した花器(左)と健全な花器(右)



発病した花器



発病した花器



衰弱した株



葉の黄化・赤化症状



つきぬき症状

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス 0463-58-6612
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>

府中市郷土の森博物館

「アジサイの品種見本園植栽について」

理事 安藤秀夫

府中市郷土の森博物館の館長よりアジサイの見本園作成の依頼があり、事務局長の杉本誉晃氏と私(安藤)が植え付ける場所の下見に行ってきました。

新宿に午前9時30分集合。京王線、JR 南武線「分倍河原」駅で下車。場所がわからないので、タクシーで府中市郷土の森博物館へ。

入口で井田館長、秦副館長、鈴木係長の3人でお出迎え。

事務所でアジサイについての質問があり、杉本事務局長が受け答えをされました。その後、館内の見学。アジサイの植栽に一番良い場所は、「水車小屋流れとあじさい」等見所スポットがあり、全体の環境は非常に良いようです。また、敷地内約3万㎡の梅林には市の花「梅」60種、約1,100本が植えられており、そのまわりにアジサイを植栽したら2月～3月の梅と6～7月のアジサイで、お客様のご来館が多くなること間違いのないと思います。

その他、植え付けられているアジサイの剪定についての栽培人からの質問があり、古い太い根元の枝は切り、新しい太い枝に切りかえるように話しました。

会報15号 2006年1月発刊

あじさいおちこち「府中市郷土の森博物館紹介」があります。

是非、この博物館へアジサイの品種見本園ができますように。



平成 19 年度 日本アジサイ協会総会

池田 副会長
平成 19 年 6 月 2 1 日

JR 岐阜駅よりバスで約一時間、山県市富永の山紫水明の地アジサイで有名な山寺「三光寺」で総会
は開かれた。三光寺は前を清流に臨み背後の山の斜面を活かして建立された現代人の心を何か癒してく
れる素朴な匂いの漂う山寺である。苔むした石段を登り山門に行き着く。参道の両側に高低さを巧みに
いかしてアジサイが植栽されている。山門をくぐると鐘楼、庫裏のある広場がありアジサイの植栽と共
に余剰苗の販売がなされている。大勢の参拝者に混じり会員もアジサイ苗の物色を始めて掘り出し物を
獲得した会員もいたようである。

ご住職とご家族での季節の和菓子とお抹茶のご接待も嬉しく、ひと時の安らぎを得て心を洗われた思
いの会員も多かったのではなかろうか。感謝を申し上げたい。

この後、会場を移して総会が開かれた。池田副会長による開会の挨拶あり、議長に荒木副会長が選任
された。

荒木議長のもと池田副会長による平成 1 8 年度事業報告、同収支決算報告あり、安西監事より監査報
告が行われた。次に平成 1 9 年度事業予定、同予算案の提示が池田副会長よりあり、いずれも承認され
た。



日本アジサイ協会平成18年度収支決算報告(案)

自平成18年4月1日 至平成19年3月31日

項目	収入	支出	差し引き	内 訳
前期繰越金	1,811,585			
会費(特別会員)	261,000			継続会員10,000×25名 新会員11,000×1名
会費(普通会員)	581,000			継続会員3,000×171名 新会員4,000×17名
会費(支部)	7,500			継続支部1支部 2,500×3名
雑収入	37,989			謝礼金 祝い金 利子
会報費		695,925		会報16号17号 編集謝礼 送料他
調査研究費		30,978		ファイトプラズマ関係
通信費		71,385		会員通信費 総会案内 宅配費他
会議費		0		
事務費		23,610		事務用品 角印他
図書費		0		
雑費		113,398		岩佐前会長香典及び生花代 大場先生を送る会他
合計	2,699,074	935,296	1,763,778	
時期繰越金			1,763,778	

平成 18 年度事業報告

1. 5月頃より各地のアジサイ園より花付きが悪いとの情報が多く、3箇所現地調査を行う。
原因は前年12月まで暖冬が続き、落葉しないうちに急激な寒波が有り、頂点の花芽の部位が大きなダメージを受け、さらに遅霜の追い打ちが有り、そのために花付きが悪くなったと考えられる。
2. 5月になると毎年雑誌・新聞等の取材が多く、また協会のホームページに多数の質問が多く、対応に苦慮。6月に入るやテレビ・ラジオの取材（最近では電話による）が入る。アジサイブームを痛感する。
3. 足利フラワーパークより緑化のアジサイを10鉢送って来てファイトプラズマの鑑定依頼あり。東大・大学院の難波先生（協会顧問）に鑑定をお願いした。間違いなくファイトプラズマとの回答を頂く。（ファイトプラズマのアジサイが大量に生産販売されているので生産者・流通機関に警告を行う。）
4. 6月会報16号発行。
5. 6月9日韓国の元大学教授尹 胃榮（ユン・チュ・エン）先生来日。目的はアジサイの研究。ソウルでは、屋外では枯死するので無加温のビニールハウスで栽培との事。
6月10日相模原市の両公園をご案内。
尹 胃榮先生は当協会に入会。



22(364)

6. 6月15日テレビ東京より白山神社のアジサイ撮影。
品種説明（杉本）
7. 6月17日中部日本放送より出演依頼有り。藤井副会長出演。
8. 6月18日東京六義園アジサイ祭りに山崎理事講演。（東京都より依頼）
9. 6月20日南伊豆ホテル伊古那にて総会。21日天城甘茶、ガクアジサイ自生地見学。
参加約40名。
平成11年6月より伊豆在住の椿仲間である土屋さん、外岡さん、平沢さん（銘花城ヶ崎の発見者）、大島の尾川理事そして杉本で伊豆のアジサイ調査を続け、その採取したものを今回公開。大変好評で地元の皆様も喜んでおります。
10. 11月農林水産省種苗課にて現在野生種は品種登録ができないので、このままでは野生の優良品が外国に流れることを説明。種苗課より、そのような場合挿し木で増殖し、その中から選抜種として申請するようにとのご指導を頂く。
種苗課よりファイトプラズマの状況の質問が有り自生地で全滅した例と園芸農家で栽培されている現状を説明。
11. 平成19年3月17号発行。

平成 19 年度事業計画案

1. 5月に入ると例年の如く取材の電話や来訪が多く、ホームページの方も同様に対応に追われる。
「趣味の山野草」が平成20年3月に発行するアジサイ特集号の取材に協力。
2. 5月21日再度農林水産省種苗課にてファイトプラズマの問題について説明。（この時ファイトプラズマのアジサイに品種登録願いが出ており愕然とする）
3. 5月22日東大大学院教授難波先生（顧問）より大学内にアジサイを植えたいとの電話を戴き、最新品種20種ほど植栽した。昨日農林水産省で話の出た品種登録願いの病株が2鉢有り、難波先生と今後どのように生産を止めるか早急に対策が必要と一致した。その後、東大にファイトプラズマの2株を隔離栽培しており、今後の研究に必要なファイトプラズマ株を現在も集めております。
4. 平成18年度より検討中の府中市郷土の森博物館より依頼のアジサイの品種保存園の打ち合わせを総会後に行う。
5. 豊島園（東京都練馬区）第5回アジサイ祭りに協力。
6. 6月21日（木）岐阜県山県市の三光寺にて総会。
7. 6月26日～27日伊豆半島アジサイ調査。（土屋さん、平沢さん、外岡さん、杉本）
8. 7月開放8号発行予定。
9. 8月ベルギーにおいて国際アジサイ会議。滋賀大学の上町先生講演依頼有り。杉本同行予定。参加者募集（会報18号）
10. 20年3月会報19号発行予定。会員各位のご投稿をお願い致します。

23(365)

日本アジサイ協会平成19年度予算(案)

自平成19年4月1日 至平成20年3月31日

項目	収入	支出	差し引き	内 訳
前期繰越金	1,763,778			
会費(特別会員)	314,000			継続会員10,000×27名 新会員11,000×4名
会費(普通会員)	660,000			継続会員3,000×180名 新会員4,000×30名
会費(支部)	7,500			継続支部1支部 2,500×3名
雑収入	1,000			利子
会報費		700,000		会報2回発行
調査研究費		300,000		アジサイ国際会議(ベルギー) ファイトプラズマ関係他
通信費		100,000		会員通信費 総会案内 宅配費他
会議費		100,000		
事務費		50,000		事務用品他
図書費		10,000		参考資料他
雑費		100,000		総会関係他
合計	2,746,278	1,360,000	1,386,278	
時期繰越金			1,386,278	





事務局だより

毎回会報の原稿が集まらず苦慮しています。

アジサイに関する情報等是非ご寄稿ください。

① ファイトプラズマについて

各地よりファイトプラズマの情報が入っています。

会員の皆様充分ご注意ください。

販売している園芸店等ありましたら、ご一報ください。

見分け方としてはファイトプラズマの場合、咲きはじめから装飾花、両性花共に濃緑色で花弁が厚く蠟細工のような光沢があり花弁が小さな葉になります。

開花後、花が老化して緑になるのはほとんどファイトプラズマでは有りません。





庭のミナヅキ (2度咲き 10月)



季節はずれ 11月の藍姫



近所の庭で花火



サマーランドで同種からガク咲
とテマリ咲

散策コースから路傍のアジサイ 写真 秋田 宏

第19号 あじさい

2008年3月発行

発行 日本アジサイ協会
事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 5-3-11 杉本誉晃 方

日本アジサイ協会事務局

TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707

三菱東京UFJ銀行 港北ニュータウン支店

口座番号 普通 0481343

ホームページ

<http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/>